

3月27日(日)

山西川

平標山

M. 菅沼 佐藤(昌) 龜嶋
木崎 田村(清)

天候 雪

ダイヤ改正により、10:45発の電車がなくなり
しかたなく新幹線を伏う。

朝6:00のバスに乗りこえ前に上空には
かすかな青空が認められる。

「頂上に着く頃には、雲一つなくない
いよかも？」という声に期待しながら
バスに乗る。

しばらくして外を見ると横なぐりの雪に
あわててヤッケを着こえ。

二俣こバスをおり、学校前に準備を整えて
出発。

当初の予定では、二俣-平標山-仙倉山
-シカゲイ-土樽こはれ庄のだが。

地玉堂川を右へ折れ 平らな道をしばらく
行きアゲの森の沢へ入る。

ここからが、目論としてこはれルートアインティンガ
門山れま、登りずらの沢である。

3月の下旬としこはれあむらしく、雪が多く
しかも重い雪で苦しんだ。

それともなんとか 高度を保てばいいと
しだいに 風と雪が増してくる。

自分としては、やっとの思いで 桧木山から 平標山
への尾根に着く。

そこから ヤカイ沢から 火灯峠にこようとしたが
尾根から下を見ると、かなりの斜度があおぼう
に見えくなつたり。

天候も悪く、登った来た道と 戻る事にする。

ここもまた、ヤフがなく 自分としては 全く
思いどおりにはない。スペルも しりぞれだ。

ペテランの人に 言われると こんなものかは まだ
ヤフスキーとは、言えないそうであるが
自分にしては、苦しい スキーであった。

次をぬけよし 天候もかなり 良くなり、やつり
山の上の山の上は、かなり違うなという事を知ら
された山行であった。

